

【取扱い厳重注意】

多分保安院だったと思うんです。

それに対する回答は、その試算は、運転中の炉が非常に危険な状態になって爆発するか、そういうことが前提のモデルだという話を聞いたので、そのシミュレーション自体はそういう前提のもののようにですという話は、総理あるいは官邸の政府の方々に報告した記憶はあります。

○質問者 最初に片山企画調整課長にヒアリングをさせていただいたときに、たしか貞森秘書官だったというふうに記憶で言っているんですけども、30キロの話が出ているので、外に出る避難と屋内退避のどちらがいいかをちょっと検討してもらえないかという話が、大体8時半か9時ぐらいに電話であったというふうなことをお伺いしているんですけども、その御記憶はございますでしょうか。

○貞森審議官 30キロという話が出ているというのを連絡している可能性はあると思いますが、屋内退避がいいか、避難がいいかどうかという聞き方をした記憶はないですね。

○質問者 ないですか。

○貞森審議官 はい。

○質問者 保安院としてはどう思うかということは聞いたかもしれないですか。

○貞森審議官 かもしれませんが、私はむしろ、とにかく東京電力が示していたシミュレーションが一体何なのかということがよくわからなかったものですから、あれは一体どういうものなのかというのをだれかに聞いたんですね。それは保安院だったかな。そこは覚えているんです。だから、そういった意味で、かなり前提が違うなというふうに思ったわけです。

○質問者 もう一つ覚えていればなんですけども、30のときに危機管理監の方から、20キロを更に30に拡大しての避難になると、要介護者とかも相当な数がいて、いきなり避難はできないから様子を見てはどうかという発言があったという話もあるんですが、御記憶はありますか。

○貞森審議官 それはあったかもしれませんが。まさに危機管理監のところは、現実に実行できるかどうかということを心配する立場のところでもありますので、そういった議論があった可能性はあると思います。ただ、明確にどういう議論だったかというのは覚えていません。

○質問者 ありがとうございます。

○質問者 3月15日の11時の20キロ～30キロの屋内退避の指示の前段階の話を今お聞きしていたわけなんですけれども、この検討作業というのは先ほどおっしゃったように、東電に統合対策本部を設置した後の11時までの間で話があるんですが、その場には貞森さんも一緒に入られていて話を聞かれた。

○貞森審議官 その場というのはどの場ですか。

○質問者 総理あるいは官房長官が避難を検討している場面に。

○貞森審議官 20～30をどうするかということですか。

【取扱い厳重注意】

○質問者 はい。

○貞森審議官 自分自身が直接入っていた記憶は余りないです。部分的には入っていたかもしれませんが。

○質問者 あのときは、伊藤危機管理監が現実には避難できるかという話をされているのを直接聞かれているわけではないんですか。

○貞森審議官 それを総理室で言っていたのか、あるいは総理室に入る前に彼がそう言っていたのを聞いていたのか、それは記憶にないですね。

○質問者 そうすると、こういう議論をされている場面というのは、そんなに記憶がない。

○貞森審議官 議論はされているんです。たしか戻ってから 11 時までは、それが 1 つの重要な論点だったので、だからこそ私も、そもそも東電がやっていたシミュレーションはどういう前提なのかというのを調べたりしていたんです。

○質問者 場所はどこですか。

○貞森審議官 基本的に、場所は 5 階の総理の執務室が中心だったと思います。ただ、その前提として、官房長官は官房長官でいろいろ考えてらっしゃったと思うので。

済みません、余りかっちり、どこで何がどう決まったというところまでは覚えていません。そういう記憶はないですね。

○質問者 ありがとうございます。

○質問者 休憩を入れた方がよろしいでしょうか。

○貞森審議官 どっちでもいいですよ。皆さんに合わせます。

○質問者 では、10 分程度、休憩をとらせていただいてもよろしいですか。

○貞森審議官 はい。

○質問者 では、3 時 10 分からでいいですか。

○貞森審議官 はい。

(休憩)

○質問者 では、よろしくをお願いします。

先ほど途中で出てきました、3 月 12 日の 6 時 25 分に出た、10 キロから 20 キロに拡大するという避難指示の経緯について若干補助的に教えていただければと思うんですが、当時、海水注入を含めた議論の中にいたある方の話ですと、再臨界があり得るので、それだったら 20 キロに拡大しなければということで 20 キロに拡大したんですという言い方をされていた方もいらっしゃいまして、それで先ほどの私の質問になっているわけなんですけれども、審議官の認識としては、再臨界があるから 20 キロということではない。

○貞森審議官 私は、避難区域を拡張する方の議論に直接参加していないので、そこはわかりません。したがって、検討された方が再臨界のおそれがあるからということで聞かれていたのかどうかは、ちょっと私にはわからないんです。

しかも、私自身は基本的に再臨界の可能性があるとは思えないと思っていたので、そういった意味では、私自身、この避難との関係についてどうなのかというのは、中立的・客

【取扱い厳重注意】

観的にわかる立場にないですね。

○質問者 恐らく私も同じ立場にいて、今ぐらいの知識があればの話ですけれども、再臨界はあり得ないだろうから、それを理由にしての避難区域の拡大というのはあり得ないだろうなと思うと思うんですが、当時その場にいらっしゃった方の中で、再臨界があり得ると思っっしゃった方もいたのではないですか。

○貞森審議官 いらっしゃったかもしれませんね。

○質問者 そういうふうに現に認識して、それを理由で 20 キロに拡大したというふうに認識してらっしゃる方もいらっしゃるんですが、それはわからないですね。

○貞森審議官 わかりません。

私の理解は、再臨界そのものということではなくて、まさに水がなくなって海水注入まですなければいけないという状況にはなっているわけですね。だから、再臨界するかしないかはともかくとして、1号機の状況が非常に深刻であるということは疑いがないので、そういった意味で、それまでの 10 キロで本当に大丈夫なのかということだったのではないかと思いますけれども、済みません、それはむしろ避難地域の方を直接決められた方に聞いていただかないとわからないと思います。

○質問者 先ほど話が出てきました、経産省の■■■■課長さんからも話を伺っておりまして、先ほど審議官がおっしゃったように「当時議論が混乱していて、論点整理しなくてはという話をして、論点整理したんです」という話をされていまして、先日、実は細野大臣からも話を伺いまして、同じように「論点整理をやったんです」という話でした。そのときには一緒にいらっしゃった。

○貞森審議官 一緒にいましたね。ずっとではなかったと思いますけれども、少なくとも柳瀬君なんかと議論して、とにかく次に総理に説明をするときは変な説明をするわけにいけないので、ちゃんと整理しなければいけないと。

たしか彼が提案したんだと思いますけれども、論点を3つぐらい、再臨界の可能性があるのかということと、再臨界を含めて海水に置きかえても支障はないのかあるのかという技術的な点と、したがって最終的にやらなければいけない、そこら辺の論点を幾つかまとめて、安全委員会も保安院も東京電力もみんな一致していますというところを明確に説明しようという話だったと記憶しています。

○質問者 実は、議論が混乱していたというか、論点が混乱していたという話は、■■■■課長からも細野大臣からも聞いていますけれども、どんなふうに混乱していたのかというのが、いま一つイメージがわからないんです。もし、そこら辺の御記憶がございましたら具体的に、こんなことを言っているのにこんなことを言っていて、全然かみ合っていないみたいな。

○貞森審議官 だから、あのときは一瞬混乱しているように見えるのだけれども、今から思うと、とにかく安全委員長が再臨界の可能性がゼロではないという説明をしたというところに、ある種単純に帰着するのかもしれません。つまり結果的に、その後の 19 時 40 分

【取扱い厳重注意】

ぐらいから開催された会議でも、基本的に3者全員が口をそろえて言っていたことは、再臨界の可能性はほとんどないと。

たしか2回目の説明をしたときは、班目委員長ではなくて久木田委員長代理だったと思いますけれども、再臨界の可能性という点に関して言えば、可能性はほとんどないと。他方で事態は非常に切迫していて、真水がない以上は海水を入れて冷やさなければいけないという緊急性は高い。したがって、海水注入をやらなければいけません。それは、ある意味では保安院も全く同じです、東京電力も全く同じですという形で、結果そろえてやったということなので、混乱していたというよりも、あのときはとにかく実際に混乱していましたからね、雰囲気的には物すごく混乱していたので、どうなってしまうんだろうかというふうにみんな思っています。

○質問者 悪い雰囲気でしたか。

○貞森審議官 はい。

みんな物すごく心配していたんですけれども、突き詰めて考えれば再臨界の可能性はない、実質的にないということをちゃんと説明しなければいけないのが、そのときにできてなかったということに尽きるんだと思います。

○質問者 その混乱している論点の中に、避難の話というのは入ってないですか。

○貞森審議官 なかったと思います。専ら、海水注水をやるかやらないかという技術的な話だけです。

○質問者 そうすると、避難の話というのは端っこの論点として、ぱたぱたと。

○貞森審議官 避難の方は、そのときに入っていた枝野官房長官とか、福山副長官とか、もともとそっちの避難の話を中心になって検討していた人たちが検討していたので。私はどちらかというと、とにかく海水注水の話をもう一度総理にちゃんとさせなくてはという思いで、そっちの方ばかりにずっとついてやっていたので、そっちの避難の方の話は、実質的にはわかりません。

○質問者 ただ、同じ部屋で。

○貞森審議官 出たんですよ。終わって、やり直しということになって、だっと出たんです。官邸応接室ではなくて、官邸の5階には待合室が幾つかありますので、その小さな小部屋に入って3者が集まって、柳瀬君が論点整理しなければとか言ってやっていたのが、官邸でちょっと待っている部屋ですね。あと、秘書官なんかが会議に使う部屋なんですけれども、そこでやっていたので。そっちに移動して出て行って、ああだこうだと言いながらやっていた記憶があります。

実際に論点整理とかをやっていたのはこっこの部屋で、枝野長官とか避難の議論がどこでなされていたのかは、私はとにかくこっちにくっついて出てきたので、そこは正確にフォローしてないです。

○質問者 実は、この避難指示というのが18時25分に出ているんです。そうすると、ブレイクして論点整理に入る間際といたしますか、前に出るような時間帯でして。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 たしか終わった直後ぐらいの感じですね。前後関係はあれですけども、少なくとも再臨界の可能性があるというふうに言って、総理が「それなら大変ではないか。ちゃんと検討し直さなければだめではないか」と言って。細野さんただかな、1回1時間ぐらいブレイクして、また1時間ぐらいでという話になって出たんですね。

私の記憶の中では、その出際に何か言っていたような感じなんですね。避難地域も今のままでいいのかという議論は、割と実際にそんな議論をしているなという認識ですね。

○質問者 そうすると、再開したのは19時30分～40分ごろでしょうから、それより1時間前にはもう出ていますので、ばたばたと決まった感じ。

○貞森審議官 きっとそんな感じだったんでしょうね。

○質問者 ありがとうございます。では、続けて。

○質問者 私から、質問事項の中の「3月12日ごろの保安院のプレスについて」と、プレス関係で御質問を差し上げたいんですけども、その前に、総理が現地視察をされたときのお話の中で、貞森秘書官は広報担当をされていたといったお話をされていらっやいまして、ざっくばらんな質問になってしまうんですけども、広報担当とは具体的にどのようなことをされていたのか。

○貞森審議官 総理秘書官が何人かいる中で、クラブとの関係の窓口をやる係というのがいます。一番端的にわかりやすい話をすれば、3月11日の震災以前は、総理は必ず毎日ぶら下がりをやっています、このぶら下がりを担当していたのは私です。わかりやすく言えば、何時にどこでやるとか、プレスの場合は幹事社というのがいますので、その幹事社にどういうことを質問するのかということを知ったりとか、そういった形でアレンジする係。

それから、例えば総理が出張とかに行きますね。地方の視察とかに行くと、そこでもぶら下がりをやります。そのぶら下がりを具体的にどういうふうにやるかというのを決めて、プレス側と仕切るとかですね。あるいは、総理の会見となると広報官などもやるわけですけども、総理との関係の接点はとりあえず私のあれなので。あと、総理向けのいろいろな想定問答ですね。問いなんかをとったものの回答を、自分で書く問いというのはそのときにあたりなかつたりですけども、基本的にとりまとめてやるとか、そういう係です。

○質問者 わかりました。

質問項目の方に戻らせていただきたいんですけども、3月12日ごろの保安院プレスについて、非常にざっくりとした形で申し訳なかったんですが、3月12日の14時ごろ、午後2時ごろに保安院の記者会見において、保安院の中村審議官の方から、炉心溶融をしている可能性が高いのではないかといった趣旨の御説明がありまして、その関係で、例えば15時ごろにNHKの方で、炉心溶融の可能性があるとといった報道がなされたなど、それがいろいろメディアに出ていたようなんですけども、具体的にそういった話を貞森秘書官は、当時御存じでいらっやいましたでしょうか。

○貞森審議官 事前にとということですか。

【取扱い厳重注意】

○質問者 やられた後にですね。

○貞森審議官 やられて報道されたんですね。事前に保安院の方から何の連絡もなかったもので、官邸の総理や官房長官もそうですし、我々も報道で初めて知ることになったものですから、この種の重要な事項については、事前に総理や官房長官にちゃんと連絡してから発表するのが普通なのではないかと。こういった重要事項について、総理や官房長官が報道で知るといのはおかしいではないかということで、ちゃんと事前に連絡するよという連絡を保安院に対してしました。

○質問者 こういった報道がなされているということ、いつごろ見られたかというところなんですけれども、何時ごろかは大体覚えていらっしゃるでしょうか。

○貞森審議官 それは覚えてないですね。ただ、保安院がこんなことを言っているというのは報道されていて、この話を聞いているかと秘書官の間でも話題になって、えっという感じだったですね。済みません、何時だったかというのは覚えてないです。

○質問者 では、実際に報道をごらんになられて。

○貞森審議官 報道で知って、びっくりしてということだったと思います。

○質問者 その記者会見以前に、記者会見で何を言うみたいな情報というのは審議官の方には全く情報が来てなかったということでしょうか。

○貞森審議官 なかったと思いますね。

○質問者 12日の14時ごろのプレスの後に、総理や官房長官、官邸側がそういう話を最初に報道で知るのはおかしいといった話を保安院に伝えたということなんですけれども、具体的に保安院のどなたに伝えたかは覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 覚えていません。可能性があるのは、片山課長かもしれませんし、わからないですね。覚えてないです。

○質問者 先ほど、このころに一番連絡をとられていたのは片山課長だとおっしゃいました。

○貞森審議官 話した回数は片山課長が一番多いので。彼のところに言えば、一応彼は全体の総括役なので。

○質問者 その話をした相手は、片山課長だけですか。事前に出してくれないと困るではないかという話をほかの方にはされていないですか。経産省のどなたかには話をされていないですか。

○貞森審議官 可能性があるとする、経済産業省の広報室長ですか。そっちに言ったかな。済みません、だれに言ったかは覚えてないです。

○質問者 わかりました。

○質問者 複数に言われた御記憶等も含めて覚えていらっしゃらないと。

○貞森審議官 だれに言ったかは覚えてないですね。

○質問者 先ほど秘書官の間で話題になっていたとおっしゃられていたんですけれども、政務側というか、総理や官房長官や副長官から何か保安院プレスについてお話を伺いさ

【取扱い厳重注意】

れたとか、そういうことはありましたか。

○貞森審議官 あったかもしれませんが、具体的にどういいうやりとりがあったかというの覚えてないですね。

○質問者 貞森審議官が保安院側に、事前にきちんと入れないのはおかしいではないかという話をされたのは審議官の御判断で。

○貞森審議官 そうですね。

○質問者 ヒアリングでほかの方からお伺いしている話なんですけれども、15時や16時ごろに、具体的に何の話で集まっていたかはわからないんですが、総理応接室で何かの集まりがあって、その中での保安院プレスの話が話題になって、炉心溶融ということを最初に言っているようだ、何でこんなことを言っているんだ、重要な事項は官邸が最初に発表するんだといったことを言っている声が聞こえたといったことを聞いたことがあるんですけども、そういった場面に出くわしたことは御記憶にありますか。

○貞森審議官 官邸がまず発表するんだということの記憶はないですね。ただ、ちょっと具体的にどう言われたかというのは覚えてないですけども、御指摘のように官邸の政務周りの方々も、事前にちゃんと連絡がないことについては、一体これは何だというような反応をされていたのではないかなという記憶はあります。

○質問者 そういった反応をされていたのがどなたかというのはわかりますか。

○貞森審議官 ある種、みんなそうだったのではないですか。とにかく総理にしても官房長官にしても、全く事務的にちゃんとした説明がなくて、そういった重大な事象について報道がなされているというのは、ある種異常なことですよ。

○質問者 官房長官も含めて、皆さんそういうような。

○貞森審議官 具体的に、だれがどう言っているという話は記憶がないんです。やや記憶が抽象的なんですけれども、明確に覚えているのは、私自身がこれは非常にまずい、これはよくないと思って、その連絡をしたのは自分でやったことなので明確に覚えています。そういった意味で、総理や官房長官は、少なくともこういった状況がよくないという認識はお持ちだったはずだと思います。ただ、具体的にどう言っていたかとか、そういったことは覚えてないです。済みません。

○質問者 ちょっとくどいようなんですけども、こういう状況はまずいと思われたというところの端緒というか、総理や官房長官がそういった保安院の情報共有体制について問題意識を抱えているんだという御認識があったからまずいと思って、報道の話を聞いたらすぐに電話をかけたということなんですか。

○貞森審議官 というよりも、とにかく官邸側に対して事前に何も説明しないで、いきなり世の中に出すというのは、幾ら緊急事態だといっても普通ではないですね。むしろ緊急事態で、例えば避難とかにも関わる話ですから、決して保安院だけで閉じている話でもない。だから、そういった重大なこと、細かいテクニカルな話について全部事前に教えてもらっても、別にそういうことをしろということではないですけども、おのずから、

【取扱い厳重注意】

ちゃんと総理や官房長官に説明した上で世の中に公表すべきことというのは当然あるわけなので、仕事のやり方としておかしいのではないかということですね。

○質問者 その仕事のやり方としておかしいというか、事前に情報共有をしなさいという話なんですけれども、事前にきちんと情報を入れろという御趣旨で言われたというところは、それでよろしいですね。

○貞森審議官 ええ。

○質問者 わかりました。

○質問者 先ほど最初のところで言われましたけれども、この種の重要な事項だからということでしょうか。

○貞森審議官 森羅万象は無理ですね。保安院の方が細かい話までを含めてデータをいっぱい持っているわけなので。彼らは彼らで、それを解説する必要性はあると思います。ただ、メルトダウンしているとかいう話をいきなりプレスにしゃべるといのはひどいのではないかと。

○質問者 メルトダウンという言葉は、言わばこの種の重要な事項に当たるので、事前に官邸に上げるべきだということだと思わうんですけれども、貞森審議官がそのときに思われた理由をちょっとわかりやすく説明していただけると。

我々もわかっていて聞いているんですけれども、どうしてそういうふうに思われたか。メルトダウン、炉心熔融という言葉を出すことについては非常に大事なことだというふうに思われたかという認識を、説明いただけるとありがたいです。

○貞森審議官 確かにもともと炉の状況はわかっていなかったわけですが、少なくとも11日や12日の段階では、まだ水が全部なくなってしまうということではないという趣旨の説明だったんですね、保安院の方から。まだ水があるという前提で、東京電力の方からも、水位計もどれぐらいを指していますとか、そんな説明がずっと11日～12日にかけては続いていたと思うんです。だから、完全に空だきになって、いわゆるメルトダウンが起こっているという説明は全くなかったの。

○質問者 そうしますと、まだ炉心が水の中にあるというふうに認識されていたということですか。

○貞森審議官 確定的にはわかりませんが、あのときはまだ水位計がどうのこうのという議論があって、今となっては非常に早いタイミングで燃料が全部露出して、数時間の単位で始まったとかいう推計を保安院が出していますけれども、当時はそこまでの認識は全くなかったんですよ。確かに、どれぐらい水があるかはわからないという状態ではあったんですけれども、いずれにしても、当時メルトダウンの可能性はありますという説明が総理や官房長官に対してなされていたという状況ではなかったわけです。

勿論、あのときは実態がわからなかったわけですが、いずれにしても、ある意味でメルトダウンというのは物すごく深刻な事態なので、そういった可能性があるということならば、それはそれでちゃんと政治のトップ、総理や官房長官に状況を説明してから世



【取扱い嚴重注意】

の中に対して説明するのが本来ではないかということですね。それは当たり前のことだと思います。

○質問者 実は私も今まで頭の整理がついてなかったところがあるんですけども、炉心溶融というのは、この時間帯であれば、多分 12 時間ぐらい前から始まっていた段階での広報で、炉心溶融をしていることはわかった上で、発表するんだったら一言言えよという趣旨なのか。

○貞森審議官 炉心溶融しているという認識はなかったんです。

○質問者 炉心溶融しているかどうか。

○貞森審議官 しているかどうかはわかりません。ただ、12 日ごろの説明では、水位計がまだ水がある程度はあるという表示だという説明もたしかあったと思ったんですね。

○質問者 そうしますと、メルトダウンとか、炉心溶融あるいは炉心損傷とか、言葉の使い方の問題ではなくて、そもそも事実が本当にそうなんだたら早く言えよというレベルですか。

○貞森審議官 そうです。ただ、中村審議官の説明というのもどれぐらい確定的なものとして言ったのかどうかというのは、余りよく覚えてないんです。

○質問者 具体的には、炉心溶融をしている可能性が高いという御説明で、メルトダウンをして、炉に穴が開いてしまっというような説明をされているわけではなかったんです。

1 点、解せないところがありまして、先ほど海水注入のときに、例えば臨界をする危険性について、炉が健全であれば燃料棒の間に制御棒が挟まっているので、水が入っていたとしても臨界を起こす危険性は少ないだろうと。

もう一つ、炉が溶けていた場合には制御棒も含めてだまになっているので、水があつたとしてもだまになっているんだから再臨界を起こすような危険性は少ないのではないかと思われていたというお話をされていらっしやいまして、ほかには IC が 8 時間程度しか生きないといったお話もされていまして。

○貞森審議官 IC とは何ですか。

○質問者 非常用復水器の話です。

○貞森審議官 IC とは最近よく報道されるのであれなんですけれども、そのころは隔離冷却系とかいう説明だったんです。

○質問者 アイソレーション・コンデンサーということですね。

○貞森審議官 では、同じことだ。

○質問者 同じものです。

○貞森審議官 そちらのバッテリーが 8 時間ぐらいはもつということです。

○質問者 そういった御認識があるとすると、全交流電源喪失が 11 日の 16 時ごろで、8 時間はとっくに経っているといったところで、3 月 12 日のお昼ごろであれば、そろそろ溶融している可能性もあるのかなというところになるのかなと。

○貞森審議官 済みません、余りそんなに論理的に考えてなかったんです。ただ、水も入

【取扱い厳重注意】

れていたんですよね。そういった意味で、隔離冷却系というのも回っているわけですし、水も入れているわけなので、全然なくなっているということではないのではないかと、あのときは漠と思っていたんだと思いますね。

○質問者 海水注入のときに、もしかしたらだまになっているかもしれないと。

○貞森審議官 先ほどの私の説明も、後から得た知識が混ざっているのかもしれませんが、そんなに明確に、論理的に考えたというほどでもないんです。ただ、少なくとも制御棒が全部入った状態でとまっているわけで、そこに新しく海水が入ったからといって臨界するはずはない、素人ですけれども、そういうのでは臨界しないのではないかというふうに思っていたということですね。

余りそんなふうの場合分けして、あのときにきれいに考えていたということはないかもしれませんが。そういった意味で先ほどの説明は、ややその後で得た知見が入ってしまっているかもしれません。ミスリーディングかもしれない。

○質問者 炉心溶融という報道があった何時間か後の話でもありますね。

○質問者 海水注入の話は 18 時なんです。ただ、3 時間しかスパンがないので、ちょっとどうなのかなと思ったんです。

○貞森審議官 余りその 2 つをリンクさせては考えていないですね。とにかく水は、今まで真水が入っていて、それに海水を入れるということなので、私の頭のイメージでは、水は足りないかもしれないけれども空っぽにはなっていないはずだという程度に思っていました。

○質問者 では、14 時ごろに報道で溶けているという話を聞いたときには本当にびっくりされた。

○貞森審議官 そうですね。ましてやメルトダウンとかという言葉が使われているので。メルトダウンだったかな。

○質問者 炉心溶融です。

○貞森審議官 炉心溶融でしたか。そういう言葉が使われていたので、それもある種、非常にインパクトを持っている言葉。

○質問者 それでは、事前にちゃんと情報共有をしろという話を保安院に伝えた後は、保安院のプレスで何を言うかという話は、事前に情報が伝わってくるようになりましたか。

○貞森審議官 確かにそれを言った後は、何時からこういう会見をやりますとか、余り知る必要もないようなことまでを含めて連絡がありましたね。

○質問者 この会見では何を言う的なこともきちんと。

○貞森審議官 こういうことを発表しますとか、細かいことも含めて連絡が来るようになりましたね。

○質問者 御記憶の限りで結構なんですけれども、そういうことはほとんど紙ベースではなくて、口頭ベースで伝達されていましたか。

○貞森審議官 口頭だったような気がしますね。紙で来た記憶は余りないです。紙でする

【取扱い厳重注意】

ような余裕はなかったのではないですか。

○質問者 では、そういった話を保安院に伝えられた後に、総理や官房長官から保安院のプレス状況について何か指示等を受けられた御記憶というのはございますか。

○貞森審議官 余りないですね。

○質問者 それでは、次の質問に移らせていただきたいと思いますけれども、3月12日の夜に福島県において、1号機の建屋が水素爆発した後の写真を公表された件があると思うんですが、貞森審議官がそちらの方を御認識されたのはいつごろだったかを覚えていらっしゃいますか。

○貞森審議官 何時かは覚えてないんですけれども、3月12日の夜になってからですね。何時ごろかな。そもそものきっかけは、それがネットに出たんだか、報道されたんですね。福島県庁に対して東京電力の福島事務所が、1号機が爆発してこうなりましたという写真を持って説明に行ったという報道が流れていました。

それで、枝野官房長官の方から、こういう報道が流れているんだけど事実関係を確認してくれという指示があって、私の方から東京電力に直接やったのかな。だれに聞いたかは記憶がないんですが、東京電力に一体これは何ですかと。ちょっと似たような話ですけども、こっちには全然何の報告もないのに、何で我々がこういうことを報道で知らなければいけないんでしょうかということ、東電に対して事実関係を聞いたら、それに対して東京電力からどういう回答があったかというのは覚えてないんですよ。本社も知らなかったんですとか、そんな内容だったような気がするんです。

それで、官房長官に東京電力はこう言っていますというのを回答したら、その場で官房長官が、そこら辺の一連のアクションも結構夜遅かったと思うんですね、たしか官房長官が清水社長に電話したんですね。

○質問者 官房長官から直接。

○貞森審議官 直接その場で。官房長官室から。夜の10時ぐらいだったかな。時間を覚えてないんですけれども、福島県庁に連絡したことを官邸に報告しないということも含めて、この水素爆発の関係だけではないんですが、東京電力から官邸に対する連絡が余りにもひどいのではないかという趣旨の注意を電話でされていました。具体的にどういうふうに言われたかというのは覚えてないです。

○質問者 貞森秘書官は、電話されているのをごらんになってどんな感想を持たれましたか。

○貞森審議官 当然だろうと思いました。

○質問者 今のお話で何点かお伺いしたいんですけれども、最初に枝野官房長官から貞森審議官が、これはどういうことですかということで直接指示を受けられたということによるしいですか。

○貞森審議官 間に官房長官秘書官が入っていたかな。

どういふあれだったかは覚えてないんですけれども、風景として覚えているのは、官房

【取扱い嚴重注意】

長官はそのとき地下の管理センターにいたんですね。そこに降りていったのかな。どうい  
うあれだったかは覚えてないんだけど、枝野さんが「これを知っているか」とかネッ  
トのプリントアウトみたいなものを渡して、僕もそれで初めて見て、えっと驚いたのです。  
そういうものがあるんだったら何でこっちに来てないんですかねとか言って、「とにかく事  
実関係を確認します」と言って、たしか5階に戻って自分の執務室から、どうやって確認  
したかな。覚えてないですけど、最終的には東電のだれかに聞いたら、たしか東電は  
「本店も知らなかったんです」ということを言っていて、それを枝野さんに。

枝野さんは、そのときはもう上に上がっていたから5階の官房長官室に入っていて、東  
電はこんなふうに回答していますというふうに伝えて、とにかく清水社長に電話しよう  
というふうに、その場で枝野官房長官が清水社長に電話されていましたね。そんな経緯だ  
つたと記憶しています。

○質問者 ネットのプリントアウトをごらんになられて、5階に戻られて、その5階から  
東電のだれかに連絡をされたということなんですけれども、東電の方からちょっとお話を  
お伺いしてまして、秘書官室に直接呼ばれて貞森秘書官に会いに行つたと。「福島県で1  
号機の爆発後の写真が出ているんだ。これを事実確認してもらえますか」といったことを  
お願いされた。本店に確認して、その旨を。

○貞森審議官 では、5階にいた東電の人にやつたんですかね。そうかもしれません。東  
電のだれに電話したのかというのが記憶に全然来なかった。あのころは、5階に東京  
電力のだれかが、武黒さん、または武黒さんの部下の人がいましたから、そのだれかに、  
これは何でしょうと言ったんですかね。だとしたら、それは正しそうな感じがしますね。

○質問者 では、お電話されたというよりは、その場にいる方に直接ちょっとということ  
で秘書官室に呼ばれて。

○貞森審議官 ただ、回答が返ってきたのが電話だったのかな。その辺りも自信がないで  
すね。とにかくそういった形で東電に対して確認をして、回答をもらった記憶はあるん  
です。それをそのまま、こう言っていますというふうに枝野官房長官に伝えた記憶はありま  
す。

○質問者 実際に審議官から事実確認を依頼された東電の方が記憶の中にある限りで、審  
議官に東電で確認した事実関係をお伝えしたところ、審議官が、そうなんですかとすごく  
驚かされていたというお話をされていて、もしかしたら報告した内容に、審議官の事前の御  
認識と相違があったのではないかと。東電からの報告を審議官が聞かれたことによって、  
そういうことだったのかといった反応を示された記憶があるということです。

○貞森審議官 そのときに、その人はどういう説明をしたと言っていましたか。

○質問者 時間的な感覚の説明の話なんですけれども、東電の1号機が爆発した後に、6  
時ごろに官房長官記者会見があるんです。その後に福島県庁で、その写真を出して説明し  
たと。そのことについては、本店もこれを出すという話を確認し切れていなかった。私  
たちも今知りましたといった話を貞森秘書官に説明された。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 そんな趣旨だったと思うんですけども、僕がもしびっくりしたとすれば、そんなばかなということなんです。だって、支店から本店に連絡があるのは決まっているだろうし、写真で説明しているということになれば本店も把握してなければおかしいんで、今から思うとそういうふうに思った記憶があります。そんなことがあるかなと思った記憶があります。だから、本店も知らなかったんですとかいう話がうそっぽく聞こえた。余り推測で言うと、東電に迷惑がかかるかもしれないのであれかもしれないけれども、あのときは本当かなと思った記憶はあります。だから、びっくりしたような声を出したというのは、そういうことかもしれない。

○質問者 これは私の勝手な邪推なんですけれども、その東電の方が、時間的な感覚の認識がずれていたかもしれないという話をされていて、もしかしたら貞森秘書官が、官房長官記者会見をする前に東電の福島事務所の方が写真を出して説明していて、それはけしからんということをおもわれていたら、実は調べてみたら官房長官記者会見後だったのかなど。

○貞森審議官 なるほど。あれは1号機が爆発した映像は出ているんだけど、官房長官は、事実関係を把握し切れないうまま記者会見をやらざるを得なかったという状況ではあったんですね。あのときは、確かに官房長官は非常に難しい対応を強いられたことは間違いないので。済みません、そこまで覚えてないですね。要するに、事前に知っていたのに何でこっちに情報をよこさないんだというふうに思っていた可能性もあるんですかね。

ただ、いずれにしても僕があのおときに思ったのは、もうかなり暗くなってしばらくしてからなんです。それで夕方に福島県庁に行って、こんな立派な写真を持って説明しているというんだったら、何でこっちに今まで一言もないんだよという思いの方がまずあったと思うんです。

それに加えて、官房長官会見との前後関係まで。あり得ますけれども、ちょっとそこまでの記憶はないですね。

○質問者 余り覚えてらっしゃらないというところで、くどい質問になってしまうんですけども、目の前で枝野官房長官が清水社長に直接お電話されていたといったところなんです。どんな話をされていたかというのは。

○貞森審議官 具体的なやりとりは覚えていません。ただ、とにかくこの写真の件とか、1号機の爆発の件も含めて、東電から官邸に対する報告の在り方というのは余りにも悪いのではないかということ指摘されていたという記憶はありますね。そういう趣旨だったと思います。具体的にどういう言葉遣いをされて、どういう言い方をされたかというのは記憶にないですけども、趣旨はそういうことだと思います。

○質問者 そこに関連しまして、3月18日ごろの東京電力のプレス発表や情報共有状況についてなんですけれども、このころには東京電力の情報共有状態が悪いんだといった御認識があったから、枝野官房長官が清水社長に直接御連絡された経緯もあったと思うんですが、いつごろからこういうような雰囲気は漂い始めたという御認識がありますでしょうか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 いつごろからかというのは、私もよくわかりません。

ただ、もともと事故が発生して以降、なかなか状況がわからない事態は初めからずっと続いていたわけですね。勿論、東京電力自身がわかってなかったというか、本当にだれもわかってなかったという状況だったんだろうとは思いますが、そこはともかくとして、結果的には官邸から見ていて様子がよくわからないという状態がずっと続いていたわけですね。

ある種決定的だったのは、3月12日の午後の1号機の爆発で、あれは日テレだったと思うんですが、日テレのテレビ映像が最初に出て、明らかにすごいことが起こっているにもかかわらず、これも東京電力に同情しますけれども、東京電力自身も多分把握できない。恐らく、現場の方々が一番把握できないというか、瓦れきの中でなかなか近づけない状態だったと聞いていますので本当にわからないんだと思うんですが、それにしてもわからない、連絡が来ないという状況で、先ほどお話があったとおり、官房長官がどういう事象だったのかという確たる報告がないだけども、かといって何も言わないでいるのはかえって世の中に不安を与えるのではないかという御判断だと思いますが、最終的には必ずしも一体どういう事象なのかというのがわからないまま記者会見に臨まれたわけなので、そういった意味で、東京電力自身がどれくらいわかってなかったかということはあるんだろうとは思いますが、報告が遅いなということは官邸関係者の東電に対する不信感と言うんでしょうか。

東電自身もわかってなかったんだと思いますけれども、あのときは、たしか官邸に来ている武黒さんだったかどなたかも、必死に東電の本店に携帯で電話されているのを私も目撃していたので、彼らも大変だなと思いつつも、それにしてもなかなか来ないというのが、難しいとわかりつつも、もう少し情報が来ないかなという感じになったということではないかと思います。

○質問者 それでは、先ほどの枝野官房長官が清水社長に直接御連絡をされた後の話なんですけれども、その後そんなにスパンを置かないで貞森審議官が東電の職員を秘書官室に呼ばれて、事実確認をしてくれと言われた職員の方がいらっしゃると思うんですが、その職員の方がそのまま5階に残っていたところ、すぐに何かの技術的なミーティングがあって、その技術的なミーティングの後に、その方と東電の■■■■部長が、まず枝野官房長官から部屋に残りなさいということと言われて部屋に残られて、その後、枝野官房長官が菅総理の面前で東電の情報共有状態について叱責するといった場面があったと聞いているんですけれども、審議官はそのことについて何か御存じですか。

○貞森審議官 それは知らないです。それは目撃してないですね。

○質問者 その後に、清水社長が3月13日の14時ごろに来られたと今思われているんです。

○貞森審議官 官邸にいらっしゃいましたね。午後の早いタイミングだったと思います。

○質問者 なぜ14時に清水社長が官邸の方に来られたかという理由は御存じでしたか。

【取扱い厳重注意】

○貞森審議官 これも余りはっきり覚えてないんですけども、その手前に清水社長は官房長官のところに行かれているのではないかと思うんです。多分。ちょっとその辺はもう覚えてないんです。

その後、官房長官室から総理室の方に回ってこられて、たしか、総理が清水社長を呼んだというよりは、官房長官のところに来られた清水社長がそのまま総理執務室に来たという感じだったのではないかなと記憶していますけれども、ちょっとあいまいです。

○質問者 では、なぜそもそも清水社長が官邸に来られたかという理由は、そのときは御存じなかったということですか。

○貞森審議官 そのときは、たしか。

○質問者 内容としては、14時ごろに計画停電の話です。

○貞森審議官 計画停電の話なんですね。計画停電の話で官房長官のところに来られたのではないかと思うんです。

私が覚えているのは、たしかその足で総理執務室に行って、たまたま総理が空いていたので、ちょっと待っていただいて入ったんですね。それで、計画停電もやらなければならない可能性があるということ清水社長の方から説明されたんです。

清水社長は、それを言うために入ったらしいんです。私もやや、あれと思ったんですね。つまり、昨日、官房長官にあれだけ怒られていたので、総理にも謝るんだろなというふうに思っていたんです。そうしたら、中身は覚えてないんですけども、計画停電の可能性があつてという趣旨のことを話されて、以上終わりで帰りそうな雰囲気になったので、菅総理の方から「話はそれだけではないのではないかと」。つまり、そもそも東電から官邸に対する情報の共有のやり方、連絡が悪過ぎるのではないのか。どういう言い方をしたかは覚えてないんですけども、12日に1号機の水素爆発が起こった後、1時間以上をかけて連絡が全然ないという状況になって、我々は何もわからなかった、こういうことでは困るということを指摘されて、連絡はもっとしっかりとしてくれという注意を行われていました。

○質問者 そこで情報共有体制が悪いんだという話を菅総理がされるというのは、事前に御存じではなかった。

○貞森審議官 いや、私は言うだろうとは思っていました。というのは、まさに前の日の枝野長官の注意もあれですし、実際に全然連絡が来ないと言って、前の日は官邸のみんながびりびりしていたので。だから私は、むしろ清水社長はいの一番にそれを謝るだろうと思っていたら、計画停電の説明から入って、後で謝るなど思っていたらそれで終わりそうな雰囲気になったので私もびっくりして、私の立場からは、総理は当然そう言うだろうなというふうに見えていましたね。

○質問者 これもほかの方からヒアリングした話なんですけれども、総理の前に会われた官房長官からお話されたことは情報共有体制のことについてと。言葉は悪いですけども、清水社長はずっと平謝りというか、謝罪をされていたといった状況で、私も、普通の感覚

【取扱い厳重注意】

であれば総理室に入ったときにすぐに謝ると思うんですけども、御記憶の中でも、あれと思うぐらい。

○貞森審議官 なかったですよ。総理から言われて、当然そこから先は平謝りですけども、自発的に自分から言ったのではなかったと思いますね。なぜそうなったのかというのは、よくわかりません。よくわからないなと思って見ていました。

○質問者 では、私からの質問は以上です。ありがとうございました。

○質問者 東電が4月4日に低濃度汚染水の海洋放出をしていますけれども、それに関してちょっとだけ聞きたいことがあります。

4月4日に実施しているんですが、一応その前から統合本部の中である程度議論が進められていたんですけども、4月4日より少し前の段階で菅総理から、汚染水の海洋放出に関して意向なり何なりを表明されたことはありますか。

○貞森審議官 記憶にないですね。

○質問者 全くないですか。

○貞森審議官 記憶にないというのは、ないかどうかではなくて、特に4月4日ぐらいになると、統合本部が細野補佐官の下でオペレーショナルになっていたもんですから、汚染水の話はほとんどそっちで決めていました。だから、もし総理に対して相談がなされているとすれば、細野補佐官から直接されているんだと思います。私のところは通っていません。そういった意味で、わからないということですね。

○質問者 では、4月4日当日のことなんですけれども、菅総理に対しても了解をとっているというふうに聞いているんですが、だれがいつとったかというところがはっきりしなくてですね。

○貞森審議官 全く覚えてないですけども、細野補佐官ではないですか。あのころの流れでいくと、その種類の重要事項については細野補佐官が直接総理の了解をとっているというパターンが多かったの。ただ、この汚染水の話が具体的に、細野補佐官がいつ何時に入ってというところまでは記憶がないんです。

その可能性が高いのではないかと思います。それは細野大臣に直接御確認いただくか、当時、細野補佐官の周辺にいた人間に御確認いただくしかないと思います。

○質問者 直接話して了解をとるパターンが多かったのでしょうか。

○貞森審議官 ではないかもしれませんが。ただ、細野補佐官が一人で入られてということも多いので。

○質問者 私は以上です。

○質問者 よろしくお願ひします。

緊急作業者の線量限度の引き上げについても何点かお尋ねしたいのです。3月14日に、それまで100であった線量限度が250に引き上げられているんですけども、これは午後には官邸の中で議論が行われて、夕方ごろに官邸から経産省、厚労省、文部科学省、官邸の事務方の方に指示が行っていると思うんですが、こちらの議論について、貞森秘書官が御



【取扱い嚴重注意】

存じのことなどはございますでしょうか。

○貞森審議官 これはほとんど記憶がないんですね。多分、担当閣僚は厚生労働大臣だと思うんで厚生労働大臣とか、あと、保安院もいたはずなんですよ。それから、この種の議論であれば、総理は必ず安全委員会を呼んでいるはずなので、保安院や原子力安全委員会などの専門家が入って、総理に説明して、それで了解をとったということだと思います。あと、細野さんも当然いたはずだと思います。250 に上げないと、だれも作業ができなくなってしまふということが必要だということですね。

具体的に、どういうやりとりでというのは記憶にないんです。確かにそういうことがあったなというのは覚えています。

○質問者 あったなというのは何ですか。

○貞森審議官 250 に上げたということ。

○質問者 厚労大臣とか細野大臣とか、メンバーが集まって話されているのをごらんになったということですか。

○貞森審議官 入っているはずだと思うんだけど、何で覚えてないんだろう。済みません、明確な記憶がないんです。

○質問者 これは、最終的に総理の指示という形で各省に伝えられているらしいのですが。

○貞森審議官 原災本部長ではないですか。原災本部長が決めたという形になっているのじゃないですか。違うかな。これは原災本部長の権限ではないのか。原災本部の権限ではないのかもしれないですね。そこはどのような指示になっているんですかね。

原災本部長の指示だということになれば、原災本部長たる総理の指示だということになるので。済みません、これは法的にどのような性格の指示だったかというのは。

○質問者 実際に上がったところは、経産省と厚労省からの告示・省令という形で上がっているんですけども、各省に告示とか省令の作成を進めろという事務手続が総理大臣からの指示として伝わっている。

○貞森審議官 ただ、少なくとも保安院や経済産業省であれば、みんなその説明に入っていますからね。それで了解をとったということで、上げたということだと思います。たしか250 に上げるときには保安院や原子力安全委員会は入っていたと思うんです。

○質問者 総理の了解をだれがどういう形でとったかというところを、もし御存じであればお聞きしようと思ったんですが、そこら辺はないというですね。

○貞森審議官 済みません、そこまでのやりとりは覚えてないです。

○質問者 3月14日の未明ごろに、当時の安井部長が官邸の5階にいらっしゃったと思うんですけども、3号機への海水注入関係で手が回らなくなって、線量限度の告示の方を変えなければいけないということで、保安院の根井審議官を官邸に呼び寄せて、根井審議官に対応をお願いしたといった話がありまして、そういった場面には出くわされていないですか。

○貞森審議官 多分入っていたんだと思います。根井さんね。あのころは安井さんがメイ

【取扱い厳重注意】

ンで根井さんも時々という感じだったので、それはいかにもありそうな話だなという気がします。済みません、これは視覚的に記憶がないんです。

○質問者 今度は17日に、更に500に上げるという検討が官邸の中で行われていたらしいんですけども、この検討に参加された御記憶も特にありませんか。

○貞森審議官 こっちはよく覚えています。

官邸の総理の執務室に、担当大臣ですね。明確に覚えているのは、防衛大臣と厚労大臣がいましたね。経済産業大臣も多分いたと思います。それから、細野補佐官がいました。もう500に上げないとあれだということになって、たしか基本的に細野補佐官が提案したんだと思います。

結局、その場で担当関係の合意が得られなかったというか、反対されていました。一番明確に反対されていたのは、北澤防衛大臣です。大体こんな話が突然出てくるのはおかしいのではないかと。当然自分の配下の自衛官の命や健康に関わる話ですから、こんな性急な検討というのはおかしいのではないかと。特に、こういう話は必要性が出てから上げてはいけない、平時のときに冷静な議論をしてその基準を決めなければいけないという趣旨のことを北澤大臣がおっしゃっていて、結局合意が得られなかったというか、担当関係の了解が得られなかったという経緯でしたね。

○質問者 今、こういう話は必要性が出てから議論すればいいということですか。

○貞森審議官 いや、必要性が出てから引き上げたりすることはやってはいけないんだという趣旨のことでした。

○質問者 平時にちゃんと準備しておくべきだということですね。

○貞森審議官 そう。緊急時にこういうことを急にやってはいけないと。ちゃんと平時に基準を決めておかなければいけない。それを使わなければいけないんだということでしたね。

○質問者 17日の何時ごろとか、御記憶はありますか。

○貞森審議官 午後だったと思いますけどね。何かの会議の後で集まったのではなかったかな。

3月17日は、原災本部をやっていますか。原災本部とか、その種の関係が集まる会議があつて、それが終わった後で集まったのではなかったかなと思いますけれども、余り自信がないですね。とにかく午後でしたよ。

○質問者 経産大臣はどういうふうにおっしゃっていましたか。

○貞森審議官 覚えてないです。海江田さんが明示的にスタンスをとっていた記憶はないですね。

○質問者 防衛大臣が反対された後、もうそこで終わり。

○貞森審議官 それでこの話は通らないなという雰囲気になって、終わったと思います。

○質問者 そもそも、なぜ500ミリシーベルトに引き上げるという話が出たかは御存じないですか。

【取扱い嚴重注意】

○貞森審議官 それ私もよくわからないんです。何でいきなりこんなにぼんぼん上がっていくんだろうと。

これは累積でしょう。250が累積したら当分はだめなわけですね。だから、250でも作業員がいなくなってしまうかもしれないという議論があって、国際的には何だったかな、同意の上でボランティアする場合は無制限というのがあるんですか。

○質問者 はい。

○貞森審議官 もともとそれが国際的なあれなので、500に上げて大丈夫なのだという趣旨での提案だったと思いました。私も、この間250に上げたばかりなのだという感じで見えていました。

○質問者 その閣僚の方たちが集まっていた場というのは、この議論のためではなく、もともと何か集まることがあってということですか。

○貞森審議官 いや、総理の執務室にこのメンバーで集まったのは、まさにこの500ミリシーベルトを議論するためだったと思います。たしかそうだったと思います。何かほかにも議論したことがあったかもしれませんが、定期的な会議みたいなものがあったということではなかったですね。総理の執務室に、担当閣僚と細野さんが集まってという機会でした。

○質問者 このときは班目委員長はいらっしゃらなかった。

○貞森審議官 安全委員会もいたと思いますけれども、班目委員長がいたかどうかは記憶にないです。

○質問者 ありがとうございます。

○質問者 こちらからの質問はほぼ終わりなんですけれども、全体を通じてこういう危機的な状況のときにずっと官邸にいらっしゃって、我々は委員会で事実を積み上げていく中で、こういうふうにしておけばもっといい対応ができたということ、今後提言として書き込んでいく予定なんですけれども、貞森秘書官の方から、何かこういう点がこうであればもっとうまい対応ができたのじゃないかという御示唆があれば、御指摘いただければと思います。

○貞森審議官 そんな御示唆をするような偉そうな立場にはないです。

多分、別に私が固有にということではないと思いますけれども、やはり実際にここまでの事態が起こるといふふうに想定されてなかったということだと思います。私も含めて、ここまでの事故は起こらないというか、本当に起こると思ってなかったということだと思います。そういった意味で、もっと実際に起こる可能性があることをもう少しちゃんと事前につぶして、マニュアルなり、訓練なり、トレーニングなり、そういったことをもっと事前きちんとしておくべきだったということだと思います。

とにかく非常用ディーゼル電源がやられなければ、ここまでの事態にならなかったわけなので、あの一事をとってみても、その後いろいろなことを言われていますけれども、実際に津波が来るという事態がきちんと想定されてなかったわけですね。ほかにもそういっ

【取扱い厳重注意】

たことがあったと思いますし、電源が途絶した場合も、ちゃんと想定はされていなかったということなので。

保安院の方では、緊急安全対策というんですか、今、そういったことをやっているということで、そういった努力が既に行われているとは思いますが、やはり根本的な問題は、本当に起こるかもしれないという前提で、いろいろな意味での備えがなされていなかったということなのではないですか。これはみんなが言うことだと思います。

○質問者 エネルギー行政にも関わっていらっしゃって、想定が十分でなかったという背景にある原因的なものについて、何か心当たりがあれば教えていただきたいんです。

○貞森審議官 今回の地震、特に津波は何百年前に起こっているらしいんですけれども、そうは言っても、少なくとも実際に日本でこれだけ大きい津波が起きたのは、近年余りないことですね。例えば100年に1回起こるかもしれないことに備えることは、どこまでコストをかけるのかということに関して、人間にとってみると物すごく難しいことですね。今になれば、結果的には間違っていたということはわかるわけですが、やはり事前にはわからない。

勿論、原子力に関しては安全がすべてだというふうにずっと言っています。言っていましたけれども、本当の意味でどこまできちんと追求するかというところは、実際に自分の目で見てないとわからないですね。

そういった意味で、人間の認識の限界というか、あるかもしれないと言われても、心のどこかで思ってしまいますね。起こるか起こらないかがわからないようなことにどこまで投資をするんだという思いは、人間には常にあるものだと思いますので、それが出てしまったということなんだと思いますね。

○質問者 1点だけよろしいですか。質問項目に含めてないことなんですけれども、また、個別的な話になってしまうんですが、貞森審議官は4月10日ごろに、政府と東電の統合対策本部の方に行かれていたということはございますか。

○貞森審議官 4月10日。

○質問者 ごろにですね。

○貞森審議官 統合本部には最初に行ったのと、あとは2回ぐらい行ったかな。1回か2回は行っていますよ。

○質問者 では、数えるほどしか行かれていないということですか。

○貞森審議官 はい。というのは、我々は余り行けないですね。

何かで行ったんですけれども、4月10日。

○質問者 ごろにですね。

○貞森審議官 わかりません。いつごろだったんだろう。そんなタイミングでは行ってないような気もするんですけれども、わからないですね。東電の方にそんな記録でも残っているんだったらそっちの方が。

○質問者 何か伏線があるわけではないので。わかりました。申し訳ございませんでした。

【取扱い嚴重注意】

○貞森審議官 よろしいですか。

○質問者 ありがとうございました。